

# 「三股プライド」 ～心と形を整える～

令和4年6月24日（金） NO10 文責 木下 文秋

## 追悼集会に思う

今から55年前の昭和44年6月30日にその事故は起きました。朝から激しい雨が降り続いて授業をしても外の様子が気になるほどの大雨が降っていたそうです。10時過ぎに校内放送で職員が職員室に呼ばれ、午前中で授業を打ち切り午後には下校させるという町の判断が出されました。ここで中2の女子生徒、川越幸子さん（田上）上牧みち子さん（田上）徳田とも子さん（餅原）今村敬子さん（餅原）の4名の名前が出てきます。彼女らは仲良しでいつもは自転車で登校してくるところを、この日は大雨のために徒歩で登校してきました。午後から下校となり汽車で下校しようと三股駅に向かいましたが、不通となり仕方なく歩いて帰る決断をしたと記録があります。勝岡を通る道と、梶山を通る道があったそうですが、梶山を通る道は安全だけと遠回り、結局近い方の勝岡を通る決断をしたようです。しかし、ここには新坂という坂があり、シラス形状の坂で大雨の時は時々通行止めになっていたとのこと。彼女らはそこを通過して下校途中で生き埋めとなって尊い命を落とすこととなります。追悼集会は、私がここに勤務していた20年前も、私が中学生時代も、粛々と行われてきた学校行事です。今の時代に大雨の下校途中で4名の中学生が生き埋めとなる事故が起これば、全国からテレビ局が駆けつける大騒動になることでしょう。新坂は整備をされていますが、今でも自転車のスピードが出る上に、カーブになっておりとても危険な場所です。当時の新聞が学校に掲載されていますが、とても悲惨な事故であったことが伝わります。実は、亡くなられた今村敬子さんと私の母はいとこになります。母親同士が姉妹で私の祖母が姉だそうです。事故が起きた時私は5歳だったので、今村敬子さんの顔を覚えていませんが、追悼集会のたびに複雑な思いがします。今を生きる私たちにとって大事なことは、同じ悲劇を繰り返さないことです。新坂での事故はもちろん、登下校の自転車での事故や河川での事故等で、尊い中学生の命が失われてはいけません。追悼集会の前夜、母にその話をしたら、いとこの母でしか知りえない話をしてくれました。今村敬子さんの制服の胸ポケットには小銭が入っていたそうです。その小銭はバス賃です。帰りは気を付けてバスで帰りなさいという親心だったのだと思います。胸が締め付けられる思いがしました。ご冥福をお祈りします。